

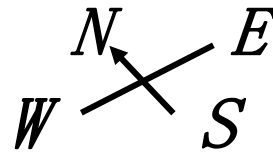
藤 沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット

2022年11月1日

第342号

主
な
記
事

- ・誰のための原発事故からの復興か？
- ・核兵器廃絶・戦争のない世界を！
- ・生物季節の観察から何が見えるか
- ・浜歩きと汐見台庁舎での懇談

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

「3年ぶり、ようやくの第25回ふじさわ環境フェアを市民会館で」

何歳くらいからだろうか、来年も同じように過ごせると根拠もなく漠然と思うようになったのは。中高生の頃は来年の事なんて細かに考えてなかった。学生時代は来年も同じように過ごせるのか不安だった。20代後半辺りから、ようやく来年も同じように過ごすための知恵がついてきた。30代、わりと安心して来年を迎えられるようになった。しかし40代、命の短さを実感し、来年を迎える事への感謝が生まれてきた。

それが50代が近付いた一昨年初春、恐れていたウィルスの感染爆発。映画や小説の中だけでと願っていた世界に突如として飛び込み、秋には第25回を華々しく迎える予定だったふじさわ環境フェアも当然、開催することなく、苦肉の策として市役所での環境パネル展に切り替えることとなった。昨年も同様にパネル展、そして迎えた今年、このままならいつものように、藤沢市民会館でふじさわ環境フェアが開催できる、そんな一ヶ月を切った。

そうなのだ、あの頃の環境フェアに近い形で開催できる。もちろん屋内はマスクをして、屋外も人が多いだろうからマスクして。ここ数回は飲食店も出展していたが、残念ながらそれは断念。密になりやすいガイドツアーも断念、第一展示集会ホールで行っていたスタンプラリー抽選会やクイズ王決定戦は前庭の特設ステージ前での開催に変更。雨が降らない事を祈り願う。俺の晴れ男ぶりよ、ここは決めてくれ。

下手したら5年間は出来ないかも、と思っていた環境フェア。11月26日土曜日、藤沢市民会館でこのままなら本当に行います。コロナ、戦争、様々な値上げ、身近な介護、これらの要因で環境配慮や環境負荷への関心が本来の意味からは遠のき、値上げされるなら節約などでようやく行動に結びつくぎりぎりの状態。その先の気候変動による危機などは身近に感じている人が減り、いやそんなものは嘘だと信じる人が増えている現状。これを打破しないと、将来は環境フェアすら開催できなくなる日も来る。そんな来年が急に来るとは思えないが、万が一もある。いま、とにかく動いていこう。(青木正美)



稲刈りが終わった(石川丸山谷戸の復元田)

誰のための原発事故からの復興か？

～放射能汚染長期化と廃炉と復興の同時同場の 矛盾と危険性～

2011.3.11 から 11 年。原発事故による核汚染災害は継続中であり、廃炉及び森林河川の汚染低減に至っては先が見えない。一方で深刻な放射能汚染継続地域では復興事業が新産業誘致の名目で、被災地（「放射能汚染地域」という表現の方が適切）の自治体の経済復興策が国策として実施されている。自然災害と異なる原発災害からの復興シナリオは、被災者の生活・生業の再生を加味した、長期的再生・復興のデザインと事業が求められる。

広範囲に降り注いだ放射性物質（主にセシウム 137）は広大な森林地域の土壌に残ったままであり、除染の見通しも立たない。また、爆発し破壊された原子力施設はどうか冷却が継続しているものの、地下水汚染及び汚染水の海洋放出が予定され、深刻で長期的な海洋汚染のリスクを抱えたままである。さらに、破壊原発の廃炉工程はデブリの取り出しも見通せないままであり、発災 40 年後の廃炉終了予定は画餅である。

さらに、1F の 1 号機の原子炉の基礎部分のコンクリートはデブリで溶け、鉄筋がむき出しの衝撃な写真が公開され、耐震対策が急務となっている。これらの状況にも関わらず、破壊された原子力施設はコントロールされているという前提のもとに、膨大な復興計画・事業が事故炉周囲の被災地域で同時進行している矛盾と危険性を痛感する。さらに、「原子力緊急事態宣言」が解除されないまま、帰還困難区域を除いて避難解除され、帰還優先及び新移住者受け入れ事業が復興事業の一環として展開されている。この矛盾を国民みんなで共有しないといけない。

ロシアのウクライナな侵攻で、チヨルノービリ原発とザポリジヤ原発の危機的状況を目の前にして、原発の危険性を改めて認識されている。一方で、原発推進の国策とする昨今の流れに、さらなる危機感を抱く。チヨルノービリ原発から半径 30km 内は立ち入り禁止区域に設定され、事故廃炉関連事業のみであり、福島のような復興事業は展開されていない。また、世界的に一番放射能汚染されているといわれる米国のハンフォードサイトも 20km 内には居住エリアはなく一

部は自然保全区域となっている。東京電力福島第一原発の事故炉から 5km 近くでは新市街地整備が進められ、帰還が促進される復興事業が展開している日本の一種の尋常ではない状況をどう国民は考えたらいいか。国の事情は配慮するとしても、福島での廃炉と復興の同時・同場進行はある意味国際的にも尋常でない政策をとっていると言わざるを得ない。

以上の認識の上に森林や除染済住宅地の汚染実態、復興計画事業のリスクの検証、廃炉と復興事業の同時進行の課題について 11 月 19 日に湘南台公民館で講演する。糸長浩司（NPO エコロジー・アーキスケーブ理事長）

浜歩きと県汐見台庁舎で懇談

「湘南のなぎさを守る藤沢市民の会」「湘南海浜植物育成会」共催による見学会に参加した。

辻堂海浜公園から浜辺を歩き、茅ヶ崎の県立汐見台庁舎までを往復した。潮風が心地良い 10 月。

辻堂浄化センターの職員さんからも下水処理状況の説明を聞きながらサイクリング遊歩道を歩く。ハマボウフウの生息地が減ったことや、砂が風にあおられて海岸の遊歩道を埋めている様子など説明を聞きながら。



（写真左）サイクリング道路が砂に埋もれている状況
（右）残されたハマボウフウなど植栽を確かめる

海岸の植栽を守るボランティアの方々の説明では、ハマボウフウなどが自生している海岸は遊歩道には砂留めの効果があり、砂が溜らないとのこと。竹で編んだ柵が砂に押しつぶされて今にも崩れるかのような所もあり、しっかり役割を果たしている所もあった。

国道 134 号線沿いの海岸にある藤沢土木事務所汐見台庁舎には辻堂海岸の歴史や文化などを展示したギャラリーもある。海岸の維持管理、整備を行っている部署。庁舎内会議室に案内され、なぎさ港湾課の職員と懇談した。

応答では・柵について、昔は南側に竹柵が2列あり、その間に溜った砂を片付けることで遊歩道から10m位の所の浜草がブルドーザーで片づけられることが無く美しい海岸が広がっていた。

・松林に散布する消毒剤ネオニコチノイド系を使わなくてはならないか？（答）厚労省では問題ないとしている。松枯れ対策としてはやらざるをえない。

・ミツバチの生態にも影響があるのでやめてほしい。（答）住宅沿いでは樹幹注入をしている。しかし樹幹注入にはお金がかかる。

・江ノ島水族館の前の砂浜が痩せてきた理由は？

（答）台風。令和元年の台風でコンクリートブロックが露出した。今は引地川河口の砂などをコンクリートの天板のところまで養浜している。

この他、浜についていろいろな質問や要望を出しながら懇談した。有意義な日であった。（荒井）

シェアサイクルの利用方法

エコネットニュース9月号に掲載のシェアサイクルについて問い合わせがありました。

詳しくは以下のアドレスを検索してみてください。
使用のためには先ず会員登録が必要です。

ハローサイクルへのお誘い

<https://www.helocycling.jp>

神奈川県ハローサイクルマップ

<https://www.helocycling.jp/station/kanagawa/>

気候危機時計

2022年10月13日現在

地球温暖化1.5℃上昇まで
残りはあと 1.5℃に抑えるために
使えるCO₂の限度は

6年と284日 世界 2,858億トン
藤沢 1,797万トン

NGO気候危機アクション藤沢

生物季節の観察から何が見えるか？ 生態系が語る環境変化

2022 ふじさわ環境フェア講演会のお知らせです。
11月26日(土)13時から市民会館会議室で標記の講演会を開催いたします。開催の趣旨は、藤沢市周辺ほかで観察した生物季節の特徴について解説し、環境変化との関係について皆さんと一緒に討論することです。主催は、NPO 法人シティ・ウォッチ・スクエア（CWS）で、以下の話題を準備しました。多くの方の参加を期待しています。

話題 1:「身近に現れる温暖化の影響」（林 陽生）

要約 気象庁の生物季節観察の指針について解説し、これまでにどのような解析結果が得られているか示す。そのなかで、日本の自然的な季節感が変わりつつある実態の解析事例を紹介する。生物季節の観察は、誰でも簡単に実施することができ、継続することで身の回りで起こる環境変動を知る良い方法である。

話題 2:「藤沢におけるクマゼミのぬけがら調査から見えてきたもの」（宮地 俊作）

要約 「シャー シャー」と鳴くクマゼミは、藤沢では、2010年8月に辻堂海浜公園でクマゼミの集団発生（210個体）が確認されました。その後10年間でぬけがらは市内全域で見つかり、分布が拡大しています。辻堂海浜公園では、2010年から夏には毎日ぬけがら調査を行ってきました。これにより発生のピークが年々早くなっていることが分かりました。元々、南の地域に分布していたクマゼミが藤沢で繁殖するようになり、発生のピークが早くなったのは温暖化の影響があると考えられます。

話題 3:「生物季節観測の開始」（丸田 恵美子）

要約 生物季節観測を継続することによって、気候変化の生物に与える影響を検出することが期待されます。それには気温変化や降水量などの影響を鋭敏に受けて季節の営みを行う動植物を選ぶことが大切です。NPO 法人・CWSの会員が中心となって、2021年から藤沢市内など数か所で、梅と桜の開花、イチヨウの黄葉、セミの初鳴きの観測を行ってきました。そして、これらの観測とアメダス観測データを比較して評価を行いました。開始からまだ2年ですが、そこから見えてきた気候変化の検出結果を報告します。

（NPO 法人 林）

核兵器廃絶・戦争のない世界を！

10月2日（日）に大船観音寺境内で、第56回神奈川県原爆死没者慰霊祭に参加しました。

原爆投下から77年になり、被爆者の高齢化が進む中、昨年度は県内で213名の被爆者の方々が亡くなりました。

あの日、広島・長崎で被爆し命を奪われた方々、その後被爆障害に苦しみながら亡くなられた方々のご霊前に「被爆体験を通して人類の危機を救う」決意を誓い鎮魂の想いを込め慰霊祭と追悼のつどいが行われました。

慰霊祭は黙祷、合祀者名簿の奉納、読経、献水、献花が行われ、続いて追悼のつどいが行われ、神奈川県原爆被災者の会会長の追悼の言葉があり、神奈川県知事の追悼のことばで



「核兵器廃絶で平和な世界、戦争のない世界をめ

ざす」とメッセージが披露されました。

さらに、各自治体首長、日本原水爆被害者団体協議会、県生活協同組合連合会、原水爆禁止県協議会（ウイーン宣言、



写真は 大船観音境内での
「追悼のつどい」

広島宣言に触れた）
などが続きました。

最後に、遺族代表の挨拶、被爆二世による折り鶴献納が行われ、「悲しみを超えて」（作詞立石扇山、作曲古川丈二、歌神矢翔）の紹介がありました。（柳川五郎）

ECONET INFORMATION

▲震災復興支援コンサート in ふじさわ

11月13日(日)13:30- 参加費 500円

藤沢市民会館第一展示ホール

主催／実行委員会 080-3018-8191 荒井



▲気候危機～気候時計でスタンディング

どなたでもOKです 親子連れ歓迎

11/18(金)16:00-17:00 辻堂駅南口

主催 NPO 気候危機アクション藤沢

▲誰のための原発事故からの復興か？

11月19日(土)14:30～湘南台公民館

講師 糸長浩司氏（NPO エコロジー・アーキスケープ理事長）資料代 300円（13:20～総会をします）

主催 福島の子もたちとともに・湘南の会

▲25回ふじさわ環境フェア-Eco²まつり

11月/26日(土)10:00- 藤沢市民会館

（詳しくはチラシ参照）展示 体験 ゲーム他

シンポ 生物季節の観察からなにが見えるか？

講師 林 陽生氏 宮治俊作氏 丸田恵美子氏

13時～2階第2会議室

主催 NPO シティ・ウオッチ・スクエア

▲気候危機に立ち向かう未来のエネルギー戦略

講師 明日香壽川さん(東北大教授)

11月26日(土) 10:30- 14:00-

場所 エコストアパパラギ 2F 参加費 1100円

主催 湘南のなぎさを守る藤沢市民の会

申込み 0466-50-0117 エコストアパパラギ

▲秋の鎌倉里山林を歩く

11月27日(日) 集合 9:30 湘南モノレール西

鎌倉駅 参加費 1000円 持物(飲物・弁当・

雨具・観察用具など)

主催：NPO 法人神奈川県自然保護協会

申込 046-222-2356

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 11月5日(土) 10:00～



《編集後記》秋晴れが続いているが10月初旬には突然冬になった。今年は虫の音も少なく、空地には一面にセイタカアワダチソウの黄色い花が目立つ。これから寒さに向かうが、電力不足の宣伝が多い。さらに、物価高で電気、ガス、食品などなどの値上げとなる。寒い寒い季節になりそうだ。紅葉狩りにも行きたいけれど…。